

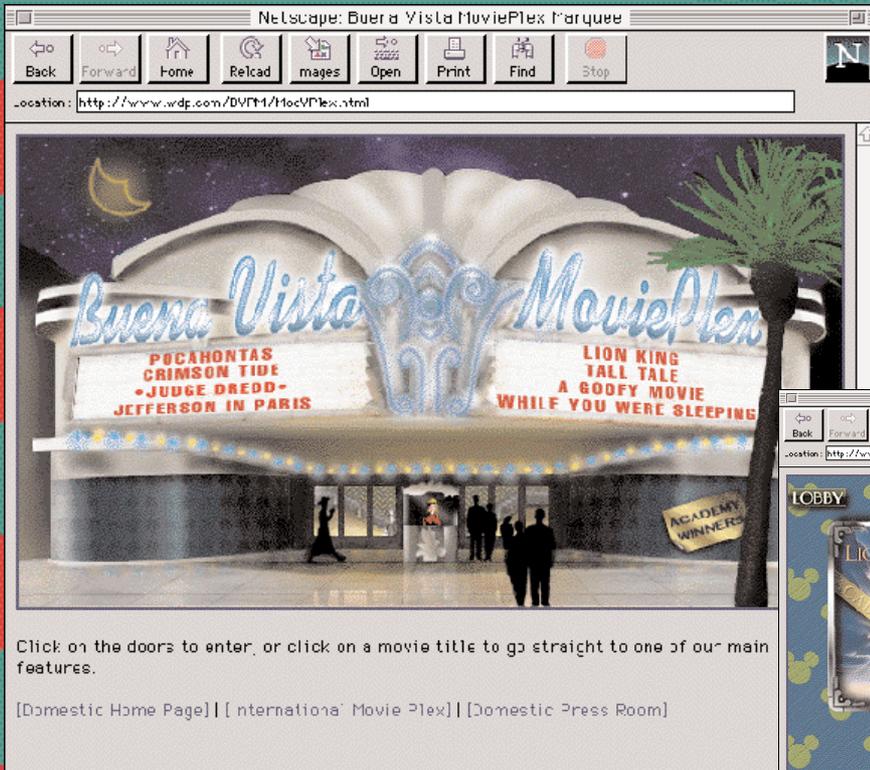


今泉 洋の

今月から今泉洋氏がこのページを担当する。今泉氏は音楽番組のDJ、某コンピュータ雑誌の米国特派員、企画プランナーといったユニークな経験の持ち主。ネットサーフィンのために夜行性になってしまったという？ 恐るべきネットサーファーだ。



# What's Cool



## ウェブで見れるディズニー系 3 社の最新映画情報

Buena Vista MoviePlex Marquee

<http://www.wdp.com/BVPM/MooVPlax.html>

The pages and in-line images on this server are  
(c) 1994 The Walt Disney Company.  
All Rights reserved.

ハリウッド・ピクチャーズ、ディズニー、タッチストーン の 3 社の新作映画の情報を集めたホームページだ。

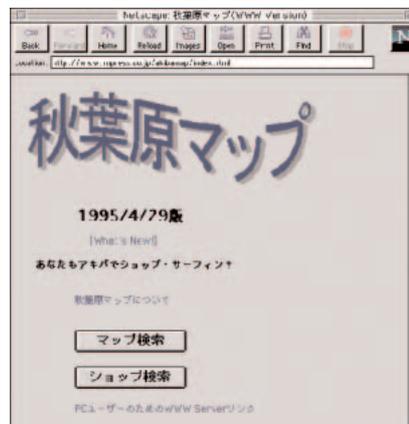
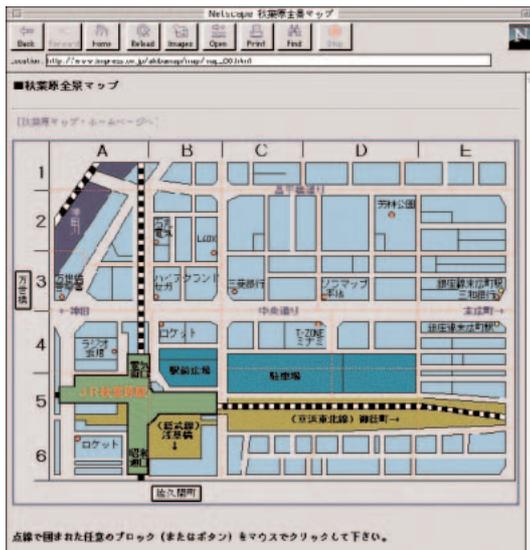
日本でも最近注目されているシネプレックス方式の映画館の正面入り口から入ると、奥には 3 つのシアターへの入り口があり、手前にトリビア担当の Magnificent Movie Brain 氏とインフォメーション担当のステラ嬢がいるという具合（このあたりのピジュア

ルがどうもディズニーっぽくなくて、ちと困惑）。Brain 氏相手にちょっとしたクイズを楽しむのもよし、ステラ嬢に日本でのリリーススケジュールをチェックしてもらいながら、プレスキットを読んでもみるのもよし...である。特にこのグラフィックスモードでは、プレスキットそのものも本物そのままの演出になっていて、ハリウッドのトコトン行っちゃいます的凝りっぷりに感心。でも、やっぱり本命

は新作映画のビジュアル。映画ごとにトレーラー（予告編）のムービークリップやフルサイズのグラフィックスが用意されている（ただしムービーファイルは 4M バイト程度あるので要注意）。

回線の都合でグラフィカルなインターフェイスは面倒という人には、ちゃんとテキストがメインのモードもあり、ダイレクトにプレスキットに行くことができるのは親切。





**高密度空間、秋葉原のガイドマップ**  
**秋葉原マップ (WWW Version)**  
<http://www.impress.co.jp/akibamap/index.html>

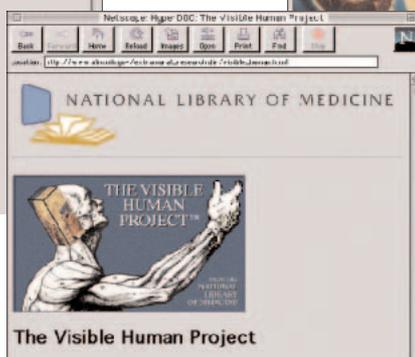
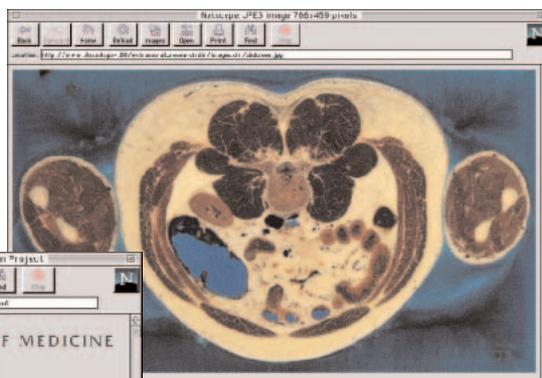
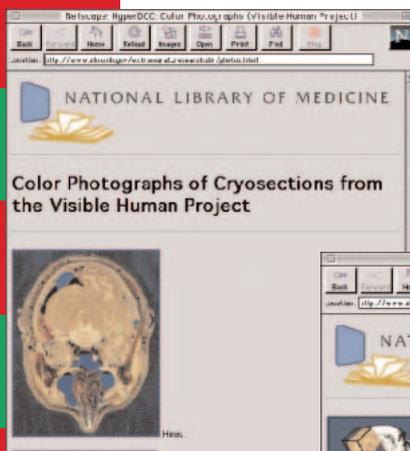
なぜかアメリカではほとんど見かけない“マップもの”だが、空間密度の高い日本、ことにあの秋葉原ということになると（決してImpressのサーバーにあるからという手前ミソでなく）重宝こうえないし、

このページは、MS-WindowsのHELPを利用したハイパーテキスト・ベースの秋葉原情報検索システム（しかもフリーソフトだというからおそれる）をウェブに載せたもの。収められているショップ情報は、IBM PC/AT 互換機

ショップ、CD-ROM 専門店、ジャンクショップ、電子パーツ店で、マップ上で知りたいブロックをクリックして次第に絞り込む方向で検索する方法と、ショップ名を入力あるいは名前順で検索する方法がある。残念ながらMac系のお

店は用意されていないが、その他についてはきちんとメンテナンスされているようなので、出かける前にちょっとチェックしたい。

作者の石橋氏によれば「雑誌での紹介は多数されているものの、ユーザーからの直接のメールなどによる反響はほとんどない」とのことなので、感想や最新の秋葉原情報などをメールしてあげると喜ばれるに違いない。



National Library of Medicine が1986年から行っている長期プロジェクトのホームページだ。プロジェクトの狙いは人体各部の名称・機能・階層的關係などの知識と人体のビジュアルイメージとを結び付けた知識構造をシステム化すること。いわば「人体のハイ

パーメディア化」である。そのためにも……とやってしまったのが、死体をミリ単位でスライスして断面を画像化するという、スゴ過ぎ

る試み。もちろんCATやMRIの画像もあるが、ピクセル数も少なく、12ビットのグレースケールであるのに対して、ナマの濃さは超ド級。なんと一断面当たり2048 × 1216ピクセルの24ビットカラーだ（うーん、こんなところでカンシンしてどうする？）

結果としてデータ容量は数十Gバイトに達してしまうので、残念(?)ながら、ここに収められて

いるのはほんの一部の画像に過ぎない。断面画像を元に三次元データを作成し、人体の断面を自由な角度から眺めることができるという、より興味深いアプローチを行っているCaltechなど関連機関へのリンクもあるので、好奇心のある人はアクセスしてみよう。ただイメージファイルを取り込んでデスクトップに貼り込むというような悪趣味はやめましょね。

**A Slice of Life ... 人体HyperMedia化計画の第一段階**  
**HyperDOC: The Visible Human Project**  
[http://www.nlm.nih.gov/extramural\\_research.dir/visible\\_human.html](http://www.nlm.nih.gov/extramural_research.dir/visible_human.html)

ロックのコレクターズ・アイテム、オークション開催中!  
Save The Earth Foundation ArtRock Auction

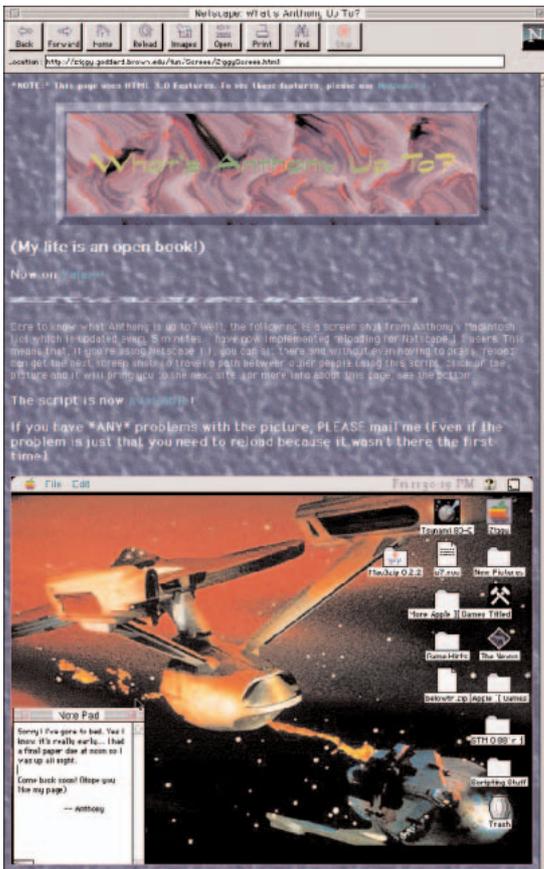
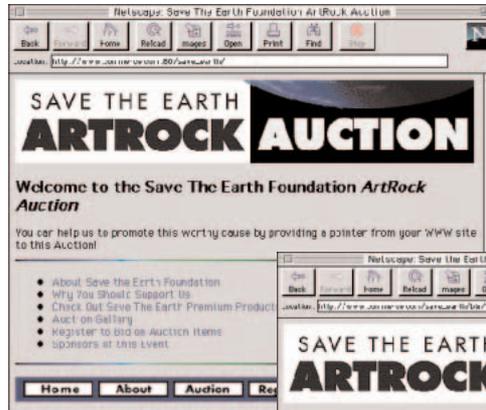
[http://www.commerce.com:80/save\\_earth/](http://www.commerce.com:80/save_earth/)

エコロジー関係の学科や研究機関に寄付を行っている「Save The Earth」財団が主催して、5月21日まで行われているロック・ミュージック関係のオークションのページだ。

アリス・クーパーからZZトップまで、各アーティストが提供するポスターや写真、45RPMのレコードからCD-ROMなど、200点近いコレクターズ・アイテムが競売にかけられていて、サムネールで見ることが出来る。もちろん、すべてがミュージシャンのサイン入りで、競売の最低入札価格は25ドルから200ドル程度。ちなみに、ポスター類で最低入札額が一

番高いのは750ドル。ストーンズのメンバー全員のサインが入った1972年のウィンターランド・コンサートのポスターで、2250ドルの価値があるという(誰が決めているのか知らないが)。中にはデッド・ケネディーズがアルバムで使った十字架なんて代物もあるが、こちらは12000ドルからスタートだ。

参加したい人は5ドルの寄付をして登録した後、自分の欲しい商品に示されている最低入札価格と現在の最高値を比較しながら入札する仕組み。郵送料などは落札者が負担することになっている。さて、参加するなら円高の今のうちかも?



やっぱウェブは専用線だよね。そしたらずっと電源ONにしとけるのに.....と考える人は多いかもしれない。そんな恵まれた(?)環境にいるブラウン大のアンソニー君は、自分の使っているMacintosh IIcxのデスクトップのスクリーンショットをそのままホームページにしてしまった。しかもNetscape1.1でのぞいていけば、5分ごとに彼が何をやっているか(ほぼ)リアルタイムでながめることができる、というワケ(ホント? 5分も待てないヨ)。だから「Note Pad」にタイプしてある彼からの「寝てますから、

しばらくは何も起こりません」といった伝言を読む、なんていうのもありだ。

ただし「My life is an open book!」とは言うものの、メールやTalkを使っている時だけはページ上には現れないように設定されているとのこと。これ以外にも、デスクトップ上のファイルをクリックして、他のページにジャンプするという機能もある。問題は彼が21インチモニターを使っている(親切に80%縮小してくれてるけど)ことで、最低限19インチモードで見ないと、全体が入らなくてとツライかもしれない。

ブラウン大生アンソニー君のデスクトップが丸見え状態  
What's Anthony Up To?  
<http://ziggy.goddard.brown.edu/fun/Screen/ZiggyScreen.html>

米国の「Cool」に対抗する英国の「Funky Site of Today」  
NetWorks

<http://www.realitycom.com/cybstars/index.html>

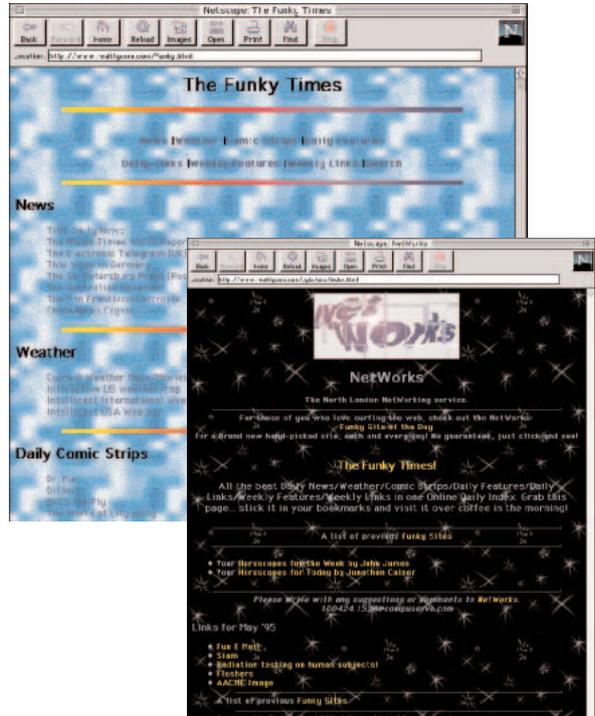
「Cool Site of Today」と言えばネットサーファーご愛用のページだが、それに対抗するように登場したのがノース・ロンドン・ネットワーク・サービスが提供するこのホームページ（しかしURLをみるとUKじゃないみたい……？）

メインのフィーチャーは当然、エディターが自分のセンスで毎日セッとするリンク。

“Cool” っていうと、ちと取った感じがあって、日本語で言う「カッコイイ」っていう感じだけど、こちらの“Funky” はアホっぽいというか、陽気というか、ひと味違う。いかにもナンセンス

なページへのリンクがあったりするの楽しい（たとえば「FLASHERS!」 = <http://www3.primenet.com/grape/hp1.html>）

これ以外にも「Funky Times!」というマガジン形式のページがあって、こっちはけっこうマジでニュースや天気、コミック、企画もやおすすりリンクなど、中身もたいそう充実している。ついでに（といては申し訳ないが）今週、あるいは今日のホロスコープもついている。毎日チェックしても退屈しないし、ブックマークをつけておいてソクはないページなんだな、これが。



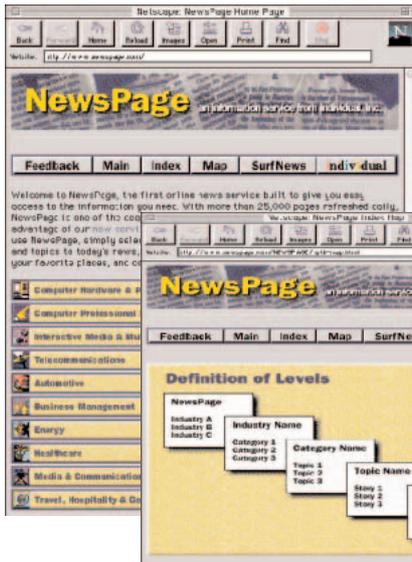
あの Starwave からショウビズの E-zine が登場  
Mr. Showbiz

<http://web3.starwave.com/showbiz/>



アメリカの大学生や若手サラリーマンの間では人気のあるスポーツE-zine「Satchel Sports」を手がけていたシアトルのStarwave社。例のシン普森報道で味をしめたのか、こんどはショウビズ方面に手を伸ばした。アメリカのTV界では、スポーツ専門チャンネルが盛況を誇るようになってしばらく後に「Entertainment Tonight」のようなショウビズ・チャンネル（“芸能ゴシップ”と言ってしまってもモトもたない）ができたという経緯がある。これは国民性というやつで、ウェブもやっぱりTVと同じ展開をたどるのか？ と考えてしまおうが、そこはそれ。ピジュ

アルには欠ける読み物中心の構成だが、なかなか“教養”あふれる内容になっている。ショウビズニュースはもちろん、スクープ記事、連載コラム、芸能ゴシップ紙のヘッドラインコレクション、映画レビューと盛りだくさん。中でも「ボキャブラリーダー（そのココロは“そのうち流行る言葉”）。例として『J-Pegged』のようなものがあげられている」というシニカルな連載は結構笑える。これもライターの層の厚さとインターネット普及のおかげ……と日本の事情をじっくり考えさせられるページ。



本格的ウェブ新聞は只今無料テスト公開中  
 NewsPage Home Page  
<http://www.newspage.com/>

最近、米国の新聞業界では新聞の電子化についての動きが甚だしい。先月号で紹介した「CRAYON」は、いかにも素人っぽさを残しつつの楽しい試みだったが、そんなことも言ってもらえない状態に突入したようだ。今回紹介するIndi-

vidual社のこのページは、その中でも先陣を切る試みと言える。内容については、コンピュータのハード、ソフト、コミュニケーションから家電、メディア、航空、金融、エネルギー、運輸、保険……と業界紙のカバーする領域をすべておさえつつ、なんと一日にアップデートされるページ数が25000にも及ぶというのだから尋常ではない。しかしここまでく

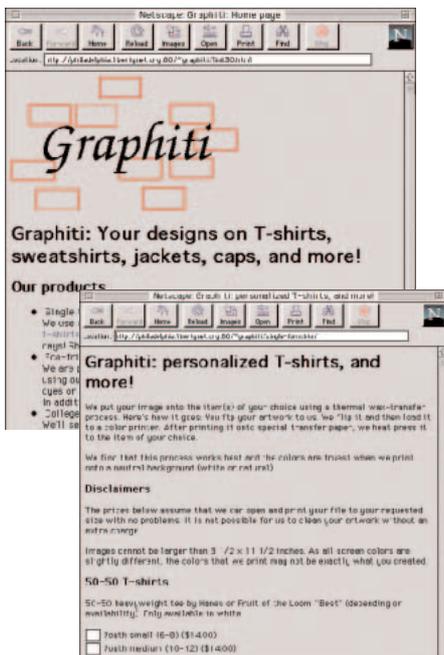
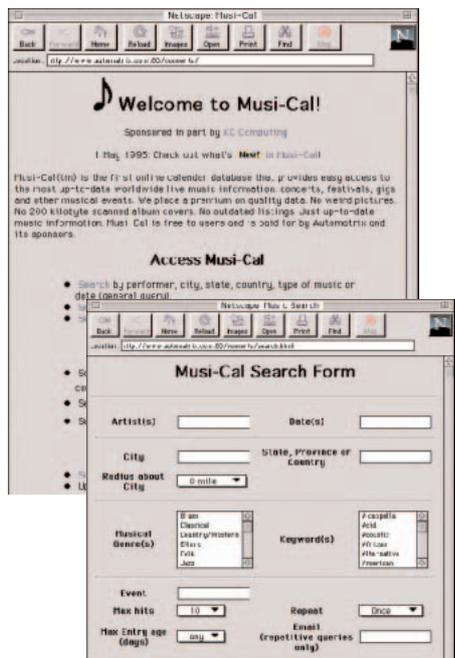
と階層も多重化されていて、まずは業界、次にカテゴリ、トピック、トピックのサマリー、そしてストーリーという具合に、本文を読むまでに5段階もクリックする必要が出てくる。本文は業界紙からの抜粋が中心となると、日本でのELの試みが連想されるところだが……。ともかく6月15日まで無料でテスト運用されているので、早めに体験しておこう。

世界初のミュージック・イベント・カレンダー  
 Musi-Cal  
<http://www.automatrix.com:80/concerts/>

「うちには、200Kバイトもあるアルバムカバーのグラフィックスなんか一切ありません。でも、音楽のライブイベント情報ならまかせといてください。世界の最新データをお届けしますから！」と豪語しているのが、このページだ。コンサート、フェスティバル、クラブでの演奏など、全世界で行われる音楽イベントのスケジュールを、アーティスト名、都市、州、

国、音楽のタイプ、開催日という項目で検索することができる。また、登録はユーザーにも開放されており、データを入力・更新することができ、ツアーやスケジュール変更の多い音楽関係者のために、電子メールで内容の問い合わせを行うインターフェイスも考えられているから、多忙な業界関係者は注目だ。さらに便利なことに、CDのデ

ィスカウント・ショップ「CD World」ともリンクしていてオンラインショッピングもできるので、音楽ファンには「いたれりつくせり」のページに違いない。このページを制作しているAutomatrix社では、この他に全世界のカンファレンスのスケジュールなどを掲載した「Internet Conference Calendar」も運営しており、こちらも便利ものだ。



「多品種少量生産」という言葉も、最近ではどこかで聞いたフレーズのようになってしまったが、現実的に考えれば、すべてがすべてカスタムメイドでなきゃダメってわけでもない。出来合いのものでも、ほんのちょっと自分らしさがあるという程度で十分なんじゃない？ というわけで、実際にフィラデルフィアのGraphiti社では「Personalization is our Spe-

cialization」を合言葉に究極のパーソナル化ビジネスを展開している。ベースとなるTシャツやスウェット、ポロシャツ、ジャケット、帽子やマグカップなどは量産品（ただし「ECOtton」というエコ・コンシャスな素材もある）だが、インターネットを通じて一般顧客から直接自作の画像ファイル（GIFをはじめ、Photoshopや

Illustrator、PSのファイルまで可能）をFTPしてもらい、そのデザインをフルカラーワックスで印刷したり、コンピュータで自動刺繍したりして、カスタムメイド（1枚からでもOK）の品を製作・提供するというわけ。「ほらみたことか」と、どこかの情報化社会評論家氏が喜ぶような話……で、誰か試してみませんか？

グラフィックスファイルをFTPして自作Tシャツを作ろう  
 Graphiti: Home page  
<http://philadelphia.libertynet.org:80/~graphiti/link30.html>



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)